会議名 厚生・文教常任委員会

日時 令和2年9月8日(火) 午前10時～午前11時48分

場所 第2・第3委員会室

出席議員 委員長 大野慎治 副委員長 井上真砂美 委員 鬼頭博和
委員 黒川 武 委員 須藤智子 委員 伊藤隆信
委員 木村冬樹

委員外議員 水野忠三

説明者 健康福祉部長 山北由美子、教育こども未来部長 長谷川忍
行政課長 佐野剛、学校教育課長 石川文子、同管理指導主事 渡辺まゆみ、同
主幹 井手上豊彦、子育て支援課長兼地域交流センター長 西井上剛、主幹 佐
久間喜代彦、同統括主査 林高行

陳述人 尾北地区教職員組合執行委員長 伊藤孝行、
新日本婦人の会岩倉支部支部長 大山節子、同支部 蟻川美穂

事務局出席 議会議務局長 丹羽至、同統括主査 寺澤顕

付議事件及び審議結果

議案番号	事件名	採決結果
議案第73号	岩倉市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	全員賛成 原案可決
議案第74号	岩倉市遺児手当支給条例等の一部改正について	全員賛成 原案可決
請願第2号	定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充を求める請願書	全員賛成 採 択
請願第3号	子ども一人一人を大切にしている感染症にも強い少人数学級を求める請願書	賛成少数 不採択

厚生・文教常任委員会（令和2年9月8日）

◎ 委員長（大野慎治君） おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまから厚生・文教常任委員会を開催いたします。

当委員会に付託されました案件は、議案2件、請願2件であります。これらの案件を逐次議題といたします。

審査に入る前に当局から挨拶の申出がありますので、許可します。

◎ 教育子ども未来部長（長谷川 忍君） おはようございます。

心配されておりました台風も、この地方には大きな被害もなく過ぎることができました。去年もおととしも、それから東海豪雨も9月の上旬に起こっているというようなこともありますので、さらに気を引き締めてというふうなことを認識したところです。

九州のほうでは、コロナの対策で避難するところが定員いっぱいになってしまうというような新たな課題も見えてきたところかなと思います。本格的な秋、文化、スポーツの季節なんですけれども、なかなか十分これまでどおりのことはできませんけれども、感染対策を取りながら、できるものについては実施してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

本日は、学校を思っただけの請願をいただいておりますし、それから条例の改正も2件お願いしております。担当課長以下、出席しておりますので、丁寧に審議に協力してまいりたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

◎ 委員長（大野慎治君） ありがとうございます。

それでは、これより審査に入ります。

陳述人がお越しになっておりますので、請願の審査から始めたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎ 委員長（大野慎治君） 御異議なしと認めます。

それでは、まず初めに、請願第2号「定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充を求める請願書」を議題といたします。

請願代表者より意見陳述されたいとの申出がありましたので、これを認めます。

意見陳述をよろしくお願ひします。

◎ 陳述人（伊藤孝行君） 失礼します。

尾北地区教職員組合で執行委員長をしております伊藤孝行と申します。よ

ろしく申し上げます。

本日は、定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充を求める請願についてお願いしたいと思います。

未来を担う子どもたちの健やかな成長は、全ての国民の切なる願いです。現在、学校現場が抱えているいじめ、不登校などの教育課題を解決し、子どもたちにこれまで以上にきめ細やかに対応するためには、今後少人数学級のさらなる拡充を含めた定数改善計画の早期策定・実施が不可欠であります。

また、子どもたちが全国どこに住んでいても、機会均等に一定水準の教育を受けられるよう、義務教育国庫負担制度の堅持とともに国庫負担率を2分の1へ復元することは、国が果たさなければならない大きな責任の一つです。

そこで、定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の堅持とともに国庫負担率2分の1への復元に向けて、内閣総理大臣、内閣官房長官、文部科学大臣、財務大臣、総務大臣に対して、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出されるよう請願いたします。よろしくお願ひいたします。

◎ 委員長（大野慎治君） 意見陳述が終わりました。

紹介議員の補足説明はよろしいでしょうか。

[挙手する者なし]

◎ 委員長（大野慎治君） 紹介議員の説明を省略し、直ちに質疑に入ります。質疑はございませんか。

◎ 委員（鬼頭博和君） 請願趣旨のほうと意見書のほうにも書いてあるんですけども、小学校専科指導の全校配置ということが書いてあるんですけども、この専科指導の具体的な教科とか、人数がどれぐらい必要なのかとか、そういったことがもし分かれば教えていただきたいと思います。

◎ 陳述人（伊藤孝行君） 失礼します。

具体的な教科としましては、英語だとか算数だとか理科になってくるのかなあというふうに思っております。

主に小学校におきましては、担任が全ての授業を今扱っているものですから、かなりこま数も多くて、多忙化解消等のものもありますし、子どもたちにきめ細やかな教育をするという観点からも、そういった専科教員を配置していただくことで、より担任の持ち時間を少なくしたりだとか、あるいは専門的な知識を子どもたちに与えられるというところもありますので、そういった観点から、小学校の専科教員の充実をお願いしたいなあというふうに考えております。

具体的な数字についてはちょっと分かりかねますので、申し訳ございませ

ん。以上です。

◎ 委員（黒川 武君） 私のほうから、執行機関と陳述人の方に幾つかお聞かせをいただきたいと思います。

まず、先に執行機関のほうに参考にお聞きをいたします。

学級の編制については、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律、いわゆる義務標準法で学級の上限人数は定められております。現在は、小1のみ35人、その他40人となっています。小・中学校の設置者である市が、義務標準法の上限人数にこだわらず、地域の実情に応じ、柔軟な学級編制をすることができる権限というのは市にございますか。

◎ 学校教育課長（石川文子君） 先ほど言われました義務標準法5条2、市町村教育委員会が都道府県の学校編制基準を下回る少人数学級を実施するには、都道府県教育委員会との協議の上、同意が必要というふうに定められております。都道府県教育委員会と協議をし、同意が得られれば市のほうで運用することは可能であります。

◎ 委員（黒川 武君） 引き続き、また執行機関のほうに参考までにお聞かせをいただきたいと思います。

国の定数を下回る学級編制に改善する場合、学校現場における課題や問題はどのようなことがあるのでしょうか。

◎ 学校教育課長（石川文子君） 少人数学級を実現するには、当然学級の増加というのが想定されると思います。それに伴い、やはり教員、教室のほうが必要となってきます。

教員の確保につきましては、現在、県費教員においてもなかなか配置のほうを大変苦慮しているというのが現状です。

また、教室に関しましても、昔は普通教室であった教室が、今はコンピューター室ですとか日本語適応指導教室、通級指導教室といった特別教室などに活用をしているということで、少人数学級の規模にはよりますが、不足するものと考えられます。

◎ 委員（黒川 武君） それでは、陳述人の方に何点かお聞かせをいただきたいと思います。

本請願を団体からは毎年同趣旨の請願が提出されております。これまでも市議会では慎重な審議の上、採択し、国へ意見書を提出しているところでございます。このように、地方から国に対し声を上げ続けることは大変重要なことではないかなと思います。これを最初に申し上げて、幾つかお聞かせをいただきたいと思います。

過去、学級編制につきましては50人から45人、そして40人、現在は小1の

み35人へと改善をされてきましたが、国の定数改善計画は、2005年度に完了した第7次計画以降、立てられておりません。少人数学級は、コロナ禍に対応する教育方法の一つとしても重要なことではございます。

文部科学大臣は、本年8月25日に来年度予算案に向け、検討を加速させる意向を示しておりますが、このような国の動きをどのように捉えておみえになりますか、お聞かせいただきたいと思います。

◎ 陳述人（伊藤孝行君） お願いします。

予算化に向けて検討をしていただけているということは、非常にありがたいことだなあと考えております。ただ、今までも文部科学省が働きかけても、やっぱり結局財務省の強い抵抗に遭って、押し切られてしまっている状態があるので、なかなかそういった基準というか設置は難しいような経緯もあるようですが、ぜひともこの機会に、少人数学級の実現のために予算立てしてもらえたら大変ありがたいなあという事は考えております。

◎ 委員（黒川 武君） ありがとうございます。

それでは、少人数学級のメリット・デメリットというのは、どのように捉えておみえになりますか。

◎ 陳述人（伊藤孝行君） お願いします。

私自身、少人数学級のデメリットとしてちょっと考えることはあまりできていないのかなあと考えています。というのは、かなり40人学級とか多い中で授業をしていることが多くて、メリットとしては、やっぱり学習面に対しても、生活面に対しても、子どもたちに対して丁寧に見てあげられるようになるかなあということを考えております。

また、先ほどいじめ等の問題等もありましたが、人数が少なくなることによって、そういった部分もより見つけやすくなるんじゃないかなあというふうに考えております。

また、子どもたちにとっても、先生と話す時間が増えるということで、子どもたちのほうから何かしらのアクションだとか、そういったことも起こしやすくなってくるんじゃないかなあというふうに考えております。

新型コロナウイルス感染拡大防止における分散登校を行ったんですけれども、各学級20人程度の学級というのを1週間程度やってみたんですが、やはり教室全体が落ち着いておりましたし、授業をやる中でも、とてもやりやすかったという教員の声も聞いておりますし、子どもたちも活発に、なかなか子ども同士の交流はできなかったんですけれども、意見を言い合いながら授業が進められたんじゃないかなあというふうに考えております。

また、少人数学級の効果というのは、世界的にも認められている部分があ

ざいますので、そういった観点からも、少人数学級での教育効果はあるのではないかなあというふうに考えておりますし、ぜひともそういった部分でメリットのほうが大きいんじゃないかなあというふうに私は考えております。以上です。

◎ **委員（黒川 武君）** ありがとうございます。

それでは、最後の質問をさせていただきたいと思います。

文科省のホームページを見ますと、今後の学級編制及び教職員定数の改善に関する教育関係団体ヒアリングというものが出されまして、その意見概要が掲載されております。それによると、少人数学級の定数については、各界から様々な御意見がございます。

全日本教職員組合や全国都市教育長協議会、日本PTA全国協議会などからは、30人学級の完全実施、日本教職員組合の保護者アンケートでは、学級規模は30人以下、全国市町村教育委員会連合会は35人程度、全国町村教育長会は当面は35人とし、将来的には30人程度の御意見で、おおむね30人または35人に見直すべきとの意見であると文科省のホームページでは掲載されております。

そこで、請願項目の1つ目に少人数学級のさらなる拡充とありますが、陳述人としましては、どのような学級編制が望ましいとお考えでしょうか。

◎ **陳述人（伊藤孝行君）** お願いします。

私自身、将来的には30人程度が一番いいのかなあというふうに考えております。

香川大学の教育学部等の研究結果において、40人から30人、そして20人と学習集団が小さくなるにつれて、学習効果だとか、あるいは個別的に指導に与える時間だとか、そういったものがおおむね満足いく結果が出ているということが研究成果から出ております。

ただ、20人学級にするということは、先ほども財政の関係もあったようになかなか難しいかなあというふうに思っておりますので、さらなる拡充という形で、今の40人学級から35人、そして最終的には30人まで行くと、私はすごくうれしいなあということを思っております。ですので、私が望ましいと思えるのは30人学級であります。

◎ **委員長（大野慎治君）** ありがとうございます。

◎ **委員（木村冬樹君）** 意見陳述に来ていただきまして、本当にありがとうございます。大変勉強になります。

黒川委員も言いましたように、この請願については毎年採択をして、国に警鐘を上げているというところでもあります。今回もそのような対応ができる

ように努力したいというふうに思っております。

それで、今質疑の中でも少し出ましたように、政府も少人数学級に向けての動きがつくられてきていると、地方からの声も上がっているというところで、この根拠となっているのは、やはり大きな問題として、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大だというふうに思っています。

ただし、今回の請願趣旨や請願事項の中には、そういったことが含まれていないものですから、私たちとしてはそういうことも含めた意見書を上げたいなというふうに考えるところではありますが、請願者としてはその辺についてどのようにお考えか、お聞かせいただきたいと思います。

◎ 陳述人（伊藤孝行君） よろしくお願ひします。

確かに新型コロナウイルスの関係で、かなり学校現場としては、教員が消毒に回ったりだとか、かなり忙しい毎日を過ごしているのは事実です。

従来上げてきたのは、本当にコロナ禍ではなかったとしても、子どもたちのためにより少人数学級を拡充していただきたいということがメインであって、今回コロナ禍になったから教員を増やしてくださいという意味ではないので、そういった点で、今までの生活の中で、学習環境の中で、子どもたちによりきめ細やかな授業をするためにお願いしたいなあというのが本意であります。

ただ、先ほど話があったように、コロナ禍の中で特に学校のほうで大変になっているのが養護教諭でありまして、消毒作業も全体に指示しなくちゃいけない、何かあったときには子どもたちの心のケアもしなくちゃいけない、体調管理の面もしなくちゃいけないということで、二重三重にその仕事が多くなってきていて、子どもたちが実際に保健室を訪れたときに満足に対応できるかどうかというのがなかなかできていない状態でもあります。

養護教諭の複数配置については、例年いろんな場面をお願いしているところなんですけれども、人数によって今それが区切られているところです。小学校については851人以上で複数配置、中学校は801人以上で複数配置になっているんですけれども、その部分の基準がさらに引き下げられて、最終的にはどの学校でも養護教諭が2人いるといいなあということを思っております。

本当にコロナ禍というわけじゃないですけれども、そういった点で教員を増員していただいたり、それに向けて、少人数の拡充を進めていただけたら非常にありがたいなあということを思っております。よろしくお願ひします。

◎ 副委員長（井上真砂美君） ありがとうございます。

今、養護教諭の複数配置のお話が出たので、教職員の定数改善計画で、養護教諭と教頭というのも複数配置の要望があると思うんですけれども、その

辺のお話もありましたら聞かせていただきたいと思います。

◎ 陳述人（伊藤孝行君） 確かに教頭にも話があったんですけども、教頭が複数いると非常にありがたいなあと思うのは、やっぱり学校の中でのことをやらなくちゃいけない部分と、学校外のPTAとかそういった地域の関係での動きもありまして、そういったところを両面に見たときに、学校の中でも今本当にいろいろな子がおりまして、代わりに誰か入らなくちゃいけないとか、そういった部分があったりしたときに、それを指示する人がいつもいてくれるというのはすごくありがたいなと思いますし、そういうことも分業しながら進めていけるというのはすごくありがたいのかなあということをおっしゃっています。ですので、本当に一人でも多く学校現場に、教育現場にいてもらえるのはすごくありがたいなあとおっしゃっていますので、先ほどの養護教諭の話でもありますし、さらに言うと栄養教諭だとかそういうところにもつながっていくんですけども、本当に一人でも多くの教員を配置していただけたらすごくありがたいなあとおっしゃっています。

◎ 委員長（大野慎治君） PTAは学校外の人ではございませんので、一体となっていますので、すみません、よろしくお願ひします。

ほかに質疑はございませんか。

[挙手する者なし]

◎ 委員長（大野慎治君） ないようですので、質疑を終結します。

次に、議員間討議に入ります。

発言する議員は挙手をお願いします。

◎ 委員（木村冬樹君） 今、質疑の中でいろいろ明らかになりました。

今回の請願には意見書の案がつけられておりますが、この案に今の情勢も含めた形で、少し加筆をして意見書を提出していくという方向がいいのではないのかなあというふうに思っています。もちろん、このやつを採択した上での話でありますけど、そういったことも含めて、これから議員の中で検討していただければというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

◎ 委員長（大野慎治君） 採決した後だったら委員長は述べられますが、今述べられませんので、ちょっと控えさせていただきます。

委員の皆さん、よろしいですよ、そのことに対してはね。

◎ 委員（須藤智子君） 意見書の内容を変えるとは、どういうふうに変えるんでしょうかね。

◎ 委員（木村冬樹君） 採択されたことが前提でということ言えば、基本的に意見書の案を基本にしながら、どこの部分でもいいですが、今の情勢的なことを少し含めて、コロナの感染拡大の中で、政府の中でも検討が進んで

いるだとか、そういった文言を少し加えていったほうが、より効果的になる
のではないかなというふうに思って、意見をさせていただきました。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに討議すべき事項はございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎ 委員長（大野慎治君） ないようですので、議員間討議を終結します。

次に、討論に入ります。

討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎ 委員長（大野慎治君） ないようですので、直ちに採決に入ります。

請願第2号「定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の
堅持及び拡充を求める請願書」について、賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

◎ 委員長（大野慎治君） 挙手全員であります。

採決の結果、請願第2号は、全員賛成により採択すべきものと決しました。
暫時休憩します。

（休 憩）

◎ 委員長（大野慎治君） 休憩を閉じ、再開させていただきます。

続いて、請願第3号「子ども一人一人を大切に作る感染症にも強い少人数
学級を求める請願書」について入らせていただきます。

請願者より、意見陳述をされたいとの申出がありましたので、これを認め
ます。

新日本婦人の会岩倉支部の皆さん、意見陳述をお願いします。

◎ 陳述人（大山節子君） こんにちは。

こういう場所でお話しするのは初めてですので、震えております。

新日本婦人の会岩倉支部の支部長の大山節子と申します。

日頃はお世話になり、ありがとうございます。

このたび少人数学級を、の請願をなぜ提出したかを少しお話しさせていた
だきたいと思えます。

御存じかもしれませんが、新日本婦人の会は1962年に創立され、58年を迎
えます。5つの目的を持って、暮らしや仕事、子育てや老後、また健康や環
境、平和などの願いで行動する国連NGOの女性団体です。

今回のコロナ禍の中で、特に子どもたちのことが気がかりでなりません。
不安を抱え、学びの格差は深刻です。そんな中、3密を避け、分散登校で授
業をして、一人一人の顔が見え、勉強もよく分かれると先生や子どもたちは実
感したようです。

全国の知事会、市長会、町村会などからも少人数学級をと求めています。未来ある子どもたちに豊かな学校生活を保障してほしいとの思いから、少人数学級を求める請願を提出させていただきました。どうぞよろしくお願いたします。

◎ **委員長（大野慎治君）** 意見陳述が終わりました。

紹介議員の補足説明はよろしいでしょうか。

〔「いいです」と呼ぶ者あり〕

◎ **委員長（大野慎治君）** 紹介議員の説明を省略し、直ちに質疑に入ります。質疑はございませんか。

◎ **副委員長（井上真砂美君）** ありがとうございます。

今呼ばれました全国知事会、全国市長会、全国町村会も少人数学級というふうには、今、大山様のほうからおっしゃられましたけれども、ここのプリントの中には、全国知事会長とか、その一名の名前が書いてありますので、その辺どちらなのかお知らせください。

〔発言する者あり〕

◎ **副委員長（井上真砂美君）** この文面のとおりで。

◎ **委員長（大野慎治君）** ほかに質疑はございませんか。

◎ **委員（須藤智子君）** 請願趣旨の中に、先ほど言われました全国知事会、全国市長会、それから全国町村会が少人数学級の実施を求めていますけれども、その中には人数は入っていないですよ。

◎ **陳述人（蟻川美穂君）** すみません。

8月27日付の中日新聞に県内の少人数学級を実施している市町村についても触れてある記事が載っていたんですけども、この中日新聞のところでは、みよし市が全学年35人学級が実現、それを実施している。それから、隣の犬山市におきましても、小学校においては7割のところでは30人学級が実現しているというふうなこと。それから、長野県などにおいては、もう県において県独自の施策というか、そういうところで予算を取って、35人学級が実現しています。

そして、このコロナ禍の中で、先ほど黒川議員もおっしゃってくださったんですけども、先ほど先生たちの組合のお話を聞いていて、やっぱり先生の人数も足りないし、それから3密を避けるという話がある中で、今のところではできないですよ。そういうふうなことで、全国の知事会の会長さんだとか、それから市町村のところの責任ある方たちが、国のほうに意見を求めているという現状があると思います。

◎ **委員（須藤智子君）** 全国知事会、市長会、町村会が求めているのは分か

るんですが、その文章の中に、学級の人数、30人というのほうたわれているんでしょいか。

◎ 陳述人（蟻川美穂君） はい。それは各自治体、市町村のところでできる範囲でということで、私たちの請願の中に、まずは30人学級で、そしてその後、速やかに20人という数があるというところに、多分そんなの無理だよというふうなお気持ちから。実際、私もちょっとそう思いながら、この文章を書きました。

先ほど新婦人の活動を話させていただいたんですけれども、8月の初旬に、今のコロナ禍の中で、少人数学級をやっぱり実現しないと、先生も子どもたちも本当に大変じゃないかなあとということで署名が始まりまして、新婦人もこの活動に岩倉市も取り組んできました。これは書くということや、それからネット署名という形も取らせていただいて、できる限り呼びかけてきまして、今、新日本婦人の会中央本部には、10万近くの署名が集められておりますし、ネット署名というのはいちよつとよくまだ分からないんですけれども、昨日見たところでは2,500人近くというふうな感じでしか出ていないんですけれども、多くの方の音がこうやって運動としてあるということです。

それで、その署名の中には、まずは30人学級を実現してほしい。そしてそれができたら、その後、速やかに20人学級をとという言葉がありましたので、その署名もやってきましたので、それを入れさせていただきます。

それが、もしそんなのは駄目というふうに言われるんだしたら、もうそれは本当にそう思います。特に厳しい財政の中で、心苦しいなということは重々思っております。もしそれを取り消せと言われたら、まず30人学級のところで、私は妥協してもいいと思っております。よろしくお願ひします。

◎ 委員（須藤智子君） じゃあこの文章というのはい、早急に30人学級、その後、速やかに20人程度というのはい、新日本婦人の会の方の御意見ということによろしいでしょうかね。

◎ 陳述人（蟻川美穂君） はい。

◎ 委員（須藤智子君） はい、分かりました。

いろいろなその熱意が伝わりました。

◎ 陳述人（蟻川美穂君） それと、多くの教育研究者の方もそのように呼びかけられているということですね。

◎ 委員（須藤智子君） はい、分かりました。

◎ 副委員長（井上真砂美君） またちよつとこだわるようでおし訳ないですけれども、全国知事会会長とか3つ、長の方が求めていますと書いてあるんですけれども、どうして一人の名前にされたのか、ちよつとその意味、全国

知事会、何とか会が求めている。

[発言する者あり]

◎ 副委員長（井上真砂美君） わざわざそこに書いてあるので、ちょっと気になるんですけれども。

◎ 陳述人（蟻川美穂君） 私は正直、難しいことはちょっと分からないんですけれども、新聞の記事とかを見ますと、そのような書き方がしてあります。その会というだけじゃなくて、会長ということは、その話合いが行われた上で、ある程度こういうふうな意見になったということをその会長さんが言われたのではないかなあというふうに判断しているんですけど、どうでしょうかね。

◎ 委員（黒川 武君） ごめんなさいね。

今の件で、恐らく団体として聞くのか、会長個人として聞くのかによって、やっぱり扱いが変わってくるだろうと。先ほどの請願のときも、私、文科省のホームページからということ引用しました。それでは、例えば全国都道府県教育委員長協議会、そういった連合会とか、そういう団体名でもってヒアリングを受けたから、団体のほうで望ましい少人数学級の規模はどの程度だということを述べているわけですので、ですから、その辺は聞き方によって表現の仕方が変わったんじゃないだろうかなあと思うんですけれども、いずれにしても、その会長が答えるということは団体の代表者であるわけですから、それはやっぱり団体の意思として見ていく必要性もあるのかなあ。これは意見で申し訳ない。

それで、ちょっとお聞かせいただきたいのは、先ほど中日新聞のことを引用してお話をされました。私も8月27日付の中日新聞の記事、これで近隣の犬山のことを書いてあります。御承知のように、犬山市の教育は、近隣、あるいは県内においても、あるいは全国的にも、やっぱり独特な教育方法を従来から積み重ねられてみえています。一番有名なのは、子どもが子どもを教えるというか、指導をすると。分からない子に教えていくということを基礎に置いた教育を行っているということで、それなりの成果も出ているだろうと思う。

それで、少人数学級についても、新聞記事によると、犬山市は2001年度から30人程度の少人数学級に取り組んできております。そして、本年度、つまり令和2年度におきましては、小学校10校の計54学年中、約7割の36学年で30人以下学級を実現したと。しかしそのためには、市の費用で雇った常勤・非常勤の講師26人を新たに配置したということになりますので、先ほども教育委員会の見解では、上限定数の範囲内だったら、それはできないわけでも

ないんですが、ただそのためには、県の教育委員会と協議し、同意を得る必要があるだろうと。犬山市はそういう手続を踏まえながら、過去から積み重ねてやってきているので、令和2年度において、約7割の30人学級というのが実現できてきたんだらうと。ただ、それを当市でやろうとすれば、その部分の費用負担というのは、本市がまるっきりかぶらなければいけないという財政的な難しさというのがやっぱり生じてくるだろうなということを考えるわけです。

しかし、憲法で定められているように、教育を受ける権利は誰しもあるわけですから、そのことについての第一義的には、やっぱり国が責任を持って行うべきことなんですよ。ところが、先ほど申し上げたように、第7次定数改善計画で止まってしまったんです。それ以後、定数改善計画が定められていないというところにやっぱり問題があるだろうという意味合いでは、先ほどの請願はそこをきちっと捉えながら、やはり定数改善計画をきちっと策定することと、そういった請願項目がございまして、私もそれは大変理解ができるところではございます。

そこでお聞きしたいのは、先ほど須藤委員のほうからも、20人程度の学級への移行と、そういったことについての質問もあったわけなんです。それに対するお答えの仕方を見ると、特段20人程度にするという根拠とか理由とかというのは、別段あるわけではないというふうに理解すればよろしいですか。

◎ 陳述人（蟻川美穂君） 根拠がないと言われる、それよりは、でも強い願望として、今コロナ禍だから特にとということになると思いますが、ソーシャルディスタンスを学校の中でも取らないと危ないよ。3密は避けなさいよということは、やっぱり子どもたちにもすごく言っていること、そういうのを守るべきだというふうなところである学校の現場が、そういうものが保たれない、なかなか難しい。それは予算的なこともあるかもしれませんが、そういうこともこのコロナの状態がずっと続く限りは、施設のなところでもある程度、人的配置だけではないお金の予算を立てていただくべきではないかなという気持ちがあります。

それから、諸外国の例を考えてみましても、より効果があるこの学習スタイルというのは、やっぱりある程度少ない人数の中で、そしてこのコロナの状態では、一人一人の子どもたちの状況を見たり、マスクの中では本当に分かりませんし、子どもの心の中とか、それから丁寧に子どもたちの声を聞いたりとか、そういうことができないんじゃないかと思うので、できれば、今現状で30人になったら本当にという、それも夢の夢だなんて思ってきたんです。

ど、さらにここの請願のところでそういう夢を語ってはいけないかもしれませんが、そのように書かせていただきました。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに質疑はございませんか。

◎ 委員（鬼頭博和君） 請願者さん、意見陳述ありがとうございました。

請願趣旨の中に、今人数のことが言われていましたけれども、早急に30人学級で速やかに20人程度ということで、いつ頃までを目指して、この言葉を言われているんですか。来年ぐらいから、もうすぐにやってほしいというのか、そういうことを言われているんでしょうか。

◎ 陳述人（蟻川美穂君） まずは、来年の予算の中で、文部科学大臣も予算を増やしたいというふうなことも言われていますよね。まだそれが予算として決まったわけではありませんけれども、30人学級を目指すというのは、もう来年、早急にです。

20人学級というのは、すみません、具体的にいつまでという気持ちはちょっとごめんなさい、分かりません。状況を見ながらということで。

◎ 委員（鬼頭博和君） はい、分かりました。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに質疑はございませんか。

◎ 委員（鬼頭博和君） 執行機関に聞きたいんですけれども、今30人学級ということで、来年か再来年ということで、今おっしゃられたんですけれども、請願者の方が。実際に今は35人で、低学年は30人ぐらいのところもあると思うんですけれども、30人、35人ぐらいにしていくと、教室が今の現状でも、さっきちょっと言われていましたけれども、足らなくなるということと言われていましたけれども、どれぐらいの数が足らなくなるのかというのをもし分かれば教えていただきたいと思います。

◎ 学校教育課長（石川文子君） 今の学年の児童・生徒数で試算をしてみました。35人学級にした場合は、全校で5クラス、5学級増えます。30人学級にした場合には26学級増えるということになります。

教室の不足につきましては、それぞれ学校の今の余裕教室の使い方等が違いますので、なかなか申し上げるのは難しいかなあというふうに思っております。

◎ 委員（鬼頭博和君） ということは、現状の状態でクラスを増やしていくというのはかなり難しい状況であるということでよろしかったでしょうか。

◎ 学校教育課長（石川文子君） 35人学級の場合ですと、それぞれ学校を見てもみますと、北小学校で4学級増えるというようなところ、岩倉中学校で1学級増えるというようなところで、教室配置のほう等ちょっと見てみましたが、今の学習室で使っている教室を移行できれば確保は可能かなあというふ

うには思います。ただ、少人数指導で使う教室がなくなってしまうという状況にはなりますので、その教室の活用の仕方については考える必要があるというふうに思っております。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに質疑はございませんか。

◎ 委員（鬼頭博和君） 今教室のことを聞いたんですけれども、じゃあ先生をやっぱり増やさないといけないと思うんですけれども、先生自体はどれぐらい要るのかというのは分かりますか。今クラスが増えるというのは分かったんですけど。

◎ 委員長（大野慎治君） 暫時休憩します。

（休 憩）

◎ 委員長（大野慎治君） 休憩を閉じ、再開します。

◎ 学校教育課長（石川文子君） 現在の愛知県の配置基準で見ますと、35人学級にしますと5名不足する、5名必要だということ。30人以下のクラスにすると30人必要になります。以上です。

◎ 委員（鬼頭博和君） ありがとうございます。

ということは、35人だと5名不足して、30人学級だと30人ほどの先生が要るということで、急激に先生の数を増やすというのはなかなか難しいと思うんですよね。やはり、もしこの少人数学級をやるとしたら、そういった先生の補助ということで、非常勤の方とかを雇っていくという形になると思うんですが、そういったことというのは可能なんでしょうか。執行機関、お願いします。

◎ 学校教育課長（石川文子君） すみません、少し答え方が変わってしまうかもしれないですけれども、現在、少人数指導に係る市費の講師の方を配置しております。全小学校に1人ずつ少人数授業と非常勤講師、合計で5名、両中学校に英語と数学の重点強化の非常勤講師をそれぞれ1名ずつの4人、また35人学級から40人学級となる小学校3年生の進級時に学級が減少して、1学級当たりの児童数が大幅に増加する場合に対応する学級運営補助の非常勤講師を今年度は1人配置しております。

現在のこれだけの10名の非常勤講師についても、予算ベースで約2,000万円、これは国や県からの財政支援ではなく市で負担をしているということになります。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに質疑はございませんか。

◎ 委員（須藤智子君） 請願者にお尋ねしますが、この請願は岩倉市のことをうたっているのかどうかちょっと確認したいんですけど、岩倉市の現状をこれはうたっているんでしょうかね。土曜日学級とか夏休み授業とか、行事

を削ったりとかがありますが。

◎ **陳述人（蟻川美穂君）** はい、もちろん岩倉市の市議会の皆さんにお願いしたい、話し合っていたきたいと思ってお願いいたしました。

やっぱり人数のことは非常に私たちも甘いところがあるかもしれませんが、あと2番、3番もありますので、その点についてもお願いしたいと思います。

◎ **委員（須藤智子君）** 当局にお尋ねしますが、岩倉市の小・中学校では、土曜日学級も授業をやっているのかお尋ねします。

◎ **学校教育課管理指導主事（渡辺まゆみ君）** 岩倉市では土曜日の授業は行っておりません。

◎ **委員（鬼頭博和君）** 請願項目の2のところ、授業を詰め込み過ぎずというふうに書いてあるんですけども、これは今のコロナ禍の中での状況でこういった言葉が出ているのか、通常の状態でもやはり詰め込みの状態なのかということをお聞きしたいんですけど。

◎ **陳述人（蟻川美穂君）** 請願者としては、このコロナ禍だからこそということがすごく意味合いの中に入っています。今このコロナ禍の中でも、岩倉市の先生たちが本当に努力してくださっているということは分かります。うちも小学校1年生の孫がいます、いつもやっぱりおばあちゃんとしては気になって、学校のホームページも見させていただいておりますし、中学校のホームページとかほかの学校はどうだろうというふうで、そういうことも本当に忙しい中で小まめに更新していただいて、そしてまたこの先生たちの組合のほうもそういうことを毎年願って、そしてここで採択されているということもすごいことだなあというふうに思いますし、そういうことにすごく励まされます。

私たちはこの請願をお願いしたくて、各議員の方を回ったんですけども、やっぱり細かいその人数のところとか、そういうふうなところで、本当にお金が要る中で甘いことを言うんじゃないというふうに思われるかもしれませんが、今の状況よりは少しでもいい形、今はまだ40人学級で行われているわけで、中学校のホームページを見ますと、とても密です。だけど、そういうふうにならざるを得なくて、そんなことは批判できないと思いますし、35人学級でもしなるんだったら、5人の先生を増やし、そしてちょっとした工夫でできるんだったら、これはぜひ考えて実行していただけたらなあというふうな願いを持っています。

◎ **委員（鬼頭博和君）** 執行機関のほうにお聞きしたいんですけども、授業を詰め込み過ぎというか、3か月授業がなかったのも、その分を取り返すために学校の先生も一生懸命やってもらっています。

また、行事なんかもなくなって、そういったところで穴埋めをしながら、またカリキュラムを圧縮しながらやっているというのを伺っているんですけども、本当に授業を詰め込み過ぎな感じでやっているんでしょうか。

◎ **学校教育課管理指導主事（渡辺まゆみ君）** お願いします。

授業も大事にしたいところなんですけれども、まずは心と体のケアを大事にしましょうということで、学校では授業の教科の詰め込み過ぎという意識をできるだけしないという方向で授業を進めています。

夏休みを短縮したり、それから生徒会行事などをやめたりして、授業に充てていくんですけれども、その授業の進み具合としては、できる限り今までと同じようにスピードアップをせずに丁寧に意識して進めているところです。以上です。

◎ **委員（鬼頭博和君）** 最後になります。

行事のことがこの趣旨の中にも書いてあります。行事を削ったり、楽しいな行事も大切に、子どもたちに仲間との共同の学びと豊かな学校生活を保障するようというふうに書いてあるんですけれども、行事が削られているということで、今学校の中では、この行事がなくなったこと、できる行事もあると思うんですけれども、どういった工夫をして今やっているのか、ちょっとお聞かせください。

◎ **学校教育課管理指導主事（渡辺まゆみ君）** まず、慣例的に行われてきた行事については、本当にこの行事は必要なのか、今やらねばならないのかという目的などを洗い直して、削除していく、中止していくということもやっております。ただ、絶対にこれは必要だというものについては、事前指導とか事後指導などを少しずつ短縮して、できる限りシンプルな形で行事に取り組めるような工夫をしているところです。

◎ **委員（鬼頭博和君）** ありがとうございます。

◎ **委員長（大野慎治君）** ほかに質疑はございませんか。

◎ **委員（木村冬樹君）** 当局にお聞かせいただきたいというふうに思っています。本来、決算審査のところでも聞こうと思ったんですけど。

岩倉の中学校では土曜の授業はもちろんないんですけど、土曜学習というのが行われていると思います。それで、それぞれの学校の、あんまり細かいことを聞いても仕方ないから、中学校で行われている土曜学習の意義だとか、あるいはやったことよっての効果、それから先生たちがどういう感想を持っているのか、もし分かれば、生徒もどういう感じを受けているのか、こういったことがちょっと分かれば教えていただきたいと思います。

◎ **学校教育課管理指導主事（渡辺まゆみ君）** 今年度につきましては、詳し

いことを確認しておりませんので、昨年までのことになってしまいますけれども、土曜学習は補充的な、やっぱりちょっと学習に心配な子たちが補助的に外部の先生に指導を受けるということになっているんですけれども、テスト前などは、本当に自分の苦手教科を克服したり、自分の分からないところを確認するためにたくさんの生徒が参加をします。先生は校内の教員ではないので、逆に聞きやすいということもありますし、丁寧に分からないところは指導してくれているというのはよく分かっています。子どもたちも、特に中学校3年生の子たちは、部活動が終わった後、2学期以降に受験のために本当に苦手な教科を克服するために毎週のように参加をして、自信をつけて受験に臨んでいる。そういう意味で、補充的な学習としての意味がとても大きくあります。

◎ 委員（木村冬樹君） その生徒たちの数というのは日によってばらばらなのかなと思うんですけど、平均してどのぐらいの、1人の先生と生徒が何人かというのが分かりましたらお聞かせください。

◎ 学校教育課管理指導主事（渡辺まゆみ君） 南部中学校の例になりますけれども、南部中学校では、6名ほど外部の先生に来ていただいて、多いときは40人から50人参加をしています。特に、テスト前などは3学年そろって各学年20人ほど参加しています。

◎ 委員（木村冬樹君） 6名の外部教員に対して40人から50人ということですから、10対1ぐらいの関係で少し指導をしているという見方でよろしいでしょうか。

◎ 学校教育課管理指導主事（渡辺まゆみ君） 授業を行っているわけではなく、指導というか、子どもの質問にそれぞれ答えてくれるということで、多いときはそうなりますが、テスト前ですと、やはりそれぐらいの割合にはなりますが、少ないと2対1とか、1対1のときもございます。

◎ 副委員長（井上真砂美君） 当局に質問します。

ここの標題のところに、子ども一人一人を大切にしている感染症にも強いというふうな標題がありますので、感染症対策として養護教諭の役割、養護教諭やら教頭やら学級担任とは別にいろいろ役割があると思うんですけれども、そちらのほう、今年度ですけれども、ありましたら教えてください。

◎ 学校教育課管理指導主事（渡辺まゆみ君） まず、養護教諭につきましては、全児童・生徒の健康管理を中心に行います。それから、当然感染症予防のための計画だとか実施についてのイニシアチブを取ってやっていくということになります。もちろん保健室は、感染症の対策のためと、それからけがの外科的な処置のために分けたりしてやるとともに、それから学級担任や職

員に対して、どのような対応をしていくといいのかということを中心に新しい情報を伝えていくということになっています。ただ、養護教諭1人では難しいので、校長、教頭をはじめ四役、それから担任、全てチームとなって、できるところをみんなが補い合いながら進めているということです。

一番学校でやっているのは、マスクの着用と手洗いの励行、これが一番、それから換気です。以上です。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに質疑はございませんか。

◎ 委員（黒川 武君） ちょっと確認させていただきます。

この請願項目、3項目ありますけれども、国に対して上げていくものと市に対して上げるものというふうに区分されていますか。

この請願項目が3つありますけれど、市に対しての項目と国に対しての意見書として上げていく項目ということで、ここの中ではどのように区分したらよろしいですか。

◎ 陳述人（蟻川美穂君） 請願項目、請願のその趣旨のところの説明書きというところですか。

◎ 委員長（大野慎治君） 委員長から言うと、請願項目で1つ目と2つ目は市に対して要望しているのか、3つ目は国に対しての意見書なので分かるんですが、1つ目と2つ目は、これは岩倉市に対して要望しているのか、文科省に対して要望しているのかというのが明確ではないということだと思います。

◎ 陳述人（蟻川美穂君） 1番、2番は市に対して強くというふうに思いまして、それでやっぱりそういうことを実現するためには国からの人とかを増やしていただかないとできないことだなあとということで、3番目のこの項目を入れさせていただいたんですけれど。

◎ 委員（黒川 武君） はい、分かりました。

それで、ちょっと関連でお聞かせいただきたい。関連と申し上げるのは、まだ採択されたわけではございませんから、ただ裏ページの意見書案の中で、「よって」以下のところで、国に対しての要望事項があるわけです。「よって」の下の行のところの必要な教職員の配置と、その後、学校医施設整備という字句がありますが、これはどういった意味合いの言葉なんでしょうか。

◎ 陳述人（蟻川美穂君） それぞれの各学校には、学校医というのが配置されてみえますよね。例えばそこには、児童・生徒及び職員の心身の保持、増進というふうな職務というふうに書いてあって、それで健康診断だとか歯の検査だとか、そういうものもありますし、あと今この時期に重要なのは、学校という環境の衛生的な観点から、今まではいわゆる換気をするというか、

そういうふうな状況があるかとか、照明が子どもたちの目にちゃんといい状態になっているかということが、学校医のその中に入っているわけですが、今このコロナ禍においては、先ほども言いましたけど、3密を避けるだとか、そしてすごく暑い中では、熱中症も避けるような対策だとか、そういうものを必要に応じて学校に対して指導だとか、そういうふうなことを考える役割も学校医というのは持っているのではないかとということで、これはちょっと文部科学省のインターネットから見たんですけれども、これからの学校にはますます学校医がそういう意味合い、だから養護教諭の先生がすごく大変なところをもうちょっと考えていくとか、地域とも呼びかけていくような、そういう専門的な知識なり指導とか、そういうものも必要になってくるというふうに書いてあったんですけれども、だからちょっとそんなふうな意味合いを持っています。

◎ 委員（黒川 武君） ありがとうございます。

私はとてもそこまで読み取れませんでした。この言葉だけでは読み取れないだろうなあとは思いますので、先ほどお聞きしたわけです。結構です。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに質疑はございませんか。

[発言する者あり]

◎ 委員長（大野慎治君） 委員の皆様にお諮りします。

水野議員から委員外質問のお申出がありました。御異議はございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

◎ 委員長（大野慎治君） じゃあ異議なしと認め、水野議員、簡潔にお願いします。

◎ 委員外議員（水野忠三君） 請願項目の3番目についてお伺いをさせていただきます。

この3番目は少人数学級実現を求める意見書ではなくて、少人数学級実現のための財政的支援を求める意見書というふうになっています。これは、解釈の仕方ということにはなるかと思いますが、支援ということは、論理的にその前提として支援される事業が先行して存在するという、つまり何もないところに支援ということはございませんので、財政的支援という言葉を使う以上は支援されるべき事業等が論理的に前もって先行して存在するということになると思うんですけれども。

ですから、その財政的な支援がなくても、要するに国から財政的な支援が仮に得られなくても、1番、2番の項目を推進してほしいという趣旨かどうか、それをお伺いしたいと思います。

- ◎ 委員長（大野慎治君） （音声欠落） いただけましたでしょうか。
- ◎ 陳述人（蟻川美穂君） はい。先ほどもお話をしたと思うんですけれども、1番、2番は早急に市の皆さんというか、そういう言う場がこの場しかないなど、署名だけではやっぱり駄目だなということを思って、勇気を出してこの請願を出しました。でも、この岩倉市の財政的な現状が、そんな余裕があるというふうにはとても思っていない。文部科学省のほうも予算を少人数学級実現のために出すことを考えているということ、今まで全然言っていなかったことを今言われているわけですので、やはり今この機会に、それから先生たちの組合でも、この言葉尻は違いますが、その意味合いはそんなに変わりません。そこまでちょっと請願の中身を言われると、詳しいところはちょっと分からないですけれども、先生を増やしてほしい、それがないと少人数学級もできません。それから、施設のところも保障されないということで、この財政的支援を求めたいという表現になりました。いいでしょうか。
- ◎ 委員長（大野慎治君） 結構です。ありがとうございました。
委員外質問は以上です。
ほかに質疑はございませんか。
- 〔挙手する者なし〕
- ◎ 委員長（大野慎治君） ないようですので、質疑を終結します。
次に、議員間討議に入ります。
発言する議員は挙手をお願いいたします。
- ◎ 委員（木村冬樹君） 私はこの請願の紹介議員になっておりますので、もちろんこの請願を採択していただきたいというふうに強く思っております。
そういった中でも、それが難しいということで、やっぱり請願者もおっしゃられたように、財政的な問題があるものですから非常に難しい。しかしながら、国のほうではもう検討が進められているから、いずれにしても、この課題は進んでいくものだというふうに思っています。ですから、そういった意味で、その国の動きを後押しする意味で意見書を上げていくということは、この時期にすごい効果的なことではないかなというふうに私は思っていますので、一部採択や趣旨採択や、あるいはみなし採択というのがあり得るのかどうか、こういったことも含めて、この請願について何らかの形での採択の方向を見いだしたいなあというふうに思っています。
- ◎ 委員長（大野慎治君） ほかに発言する委員はございませんか。
- ◎ 委員（鬼頭博和君） 私の考えなんですけれども、やはり現実的に今執行機関のほうからも答えがあったとおり、教員の面、また教室の確保の面につ

いても、なかなか現状この少人数学級を実施していくということは、早急に
するというのは難しいと思うんですね。文科省のほうもそういった方針を検
討していくというような声明も出ていますので、そういった形で、ここに書
いてある30人とか20人という数字のところをやっぱりちょっと引かかると
いうことと、それから現状、岩倉市でも少人数教室とか、それから専科教育
というものをやってみえまして、それは先ほど執行機関のほうからもありま
したとおりに、市の持ち出しで行っているということですので、やはりそこら
辺のところのまず支援を求めていくのがいいのではないかなあというふうに
思います。ということで、なかなかこの請願には賛同はちょっとできないか
なあという思いであります。以上です。

◎ 副委員長（井上真砂美君） 私もちっと賛成しかねるところがあります。

それは、感染症にも強いということで少人数学級を結びつけられたんです
けれども、やはり学級担任がそうやって行うというよりも、大所から養護教
諭やら教頭やら学校全体でやっていただくことなので、少人数学級というの
に結びつけるものではなくて、前の教員の先生が見えたときのように、定数、
配置のことを考えるというふうで、養護教諭、教頭、そちらのほうに目を向
けられたほうがいいんじゃないかと思って、今回はその少人数学級というの
はなかなか賛同しかねます。

それから、授業を詰め込み過ぎずというのも、専科教員ということで細か
く見ていただくということもあります。

それから、遅れている授業を充実させるために、少人数学級、少人数指導
教員とかが見えますので、やはり定数配置というふうで、定数配置の基準を
変えるというふうで要望書を考えていったらいいと思います。失礼します。

◎ 委員（黒川 武君） 先ほどの請願との整合性をどう取るのかと。同一市
議会の中で、矛盾のある結論を見いだしてはいかんだろうなあと思うわけな
んですよね。そここのところをきちっと視点として持ちながら判断しなければ
いけないのかなあと思います。

それで、先ほどの請願はもう終わってしまったんだけど、近年毎年のように
出されていて、そういった地方の声を上げ続けることは大変とても大切な
ことだということは先ほど申し上げたとおりで、ただその中で、コロナ禍の
ことについての文章がなかったという指摘もまた委員からありました。今審
査しているこの請願については、どちらかというところ、コロナ禍一色のような
感じがするわけなんですよね。逆に強い見方をすれば、じゃあコロナ禍が終
息すれば元に戻せばええのかねということにもなりかねない話だし、もとも
と本来少人数学級はなぜ必要なのか、そういう論理性が残念ながらこの中で

は強くうたわれているわけじゃなくて、とにかく新型コロナということだけですので、そういう意味合いでは少し●●●●の部類もあるのではないかなあと。

ただ、最初に申し上げたように、少人数学級の実現を目指すものとして、先ほどの請願とは同一趣旨的な内容もあるわけなんです。もちろん違う部類もあるかと思えます。そこのところをこの委員会でどのように整合性を持って判断できるのかどうかというところが、やはりこの委員間討議で議論すべきではないでしょうか。

委員長、お願いします。

◎ 委員（須藤智子君） 今、黒川委員が言われました同一趣旨と言われましたけど、みなし採択の件でね。これは同一趣旨になるのかどうかお尋ねします。

◎ 委員（黒川 武君） だから先ほど申し上げたように、その少人数学級を目指すという意味合いでは。だから、全てが同一趣旨とは言っていないです。細かく見ていけば、違うところもやっぱりあるんですよ。あってもいいんだけど、ただ大枠としてはどうなんだろうかというところ。

◎ 委員（須藤智子君） みなし採択というのは、同一会期中において、同一趣旨、同一目的の議案または請願が議決されている場合の請願について、一時不再議の原則に触れるので、議決することなく、既になされた同一趣旨、同一目的の議案または請願の議決の結果により、採択、不採択とみなして処理する取扱いのことを言うんですけど、これは同一趣旨ではないと思うんですけど、この請願は。そこをどうして同一趣旨にするんですか。同一趣旨じゃないとできないんでしょう。

◎ 委員（黒川 武君） 全てが同一なんていうことはあり得ないです。ただ、趣旨ですからね。言っている内容が、先ほどの請願も今回のものも、少人数学級を目指すというところではやっぱり一致はしてはいるんですよ。ただ、それに向けての方法論というのは異なって当然だろうと思うんです。ただ、教育に関しては国が第一義的に政策としてやっぱり進めるべきものであるので、当然国に対して意見書を上げることは必要なことだろうと思うんですけど、だからそういう意味合いでは、従来からの詰め込み主義はやめて、少人数学級、子どもたちにとってよりよい環境が必要だというのは、誰しもが一致できるだろうと。特に今年に入って、新型コロナの関係、ソーシャルディスタンスとかそういうことが様々あるわけですから、感染症の観点からやっぱり必要だろうなあと。ただ、本質議論というのは、従来から議論されているように、子どもたちにとってよりよい教育環境をどう我々が提供できるか

というところだと思うんです。そこのところで一致できればということも考えているわけなんですけれど。

ただ、逆に聞くと、どういうところで同一でないというふうに須藤委員は判断されるのか。

◎ 委員（須藤智子君） 請願第3号はコロナのことでうたっているということなんですよね。コロナになったからこういうふうに人数を減らしてくれということで、請願趣旨に書いてあります。先ほどもコロナ禍の中での請願だということも言われましたので、これは請願第2号とは内容は全然この趣旨は違うと思いますよ。

◎ 委員（木村冬樹君） 質疑は終わっているもんだから、もう請願者のほうから意見をしてもらうことは難しいもんだから、私が言いますけど、新日本婦人の会の運動の方針をしっかりと見てもらうと、少人数学級はずうっと以前から求めています。そういった中で、コロナのことがあって、政府の動きもあって、地方団体の動きもあるものだからということで、黒川委員が言ったように、請願趣旨の中にそういったことも触れて、入れていけばよかったかなとは思いますが、そういうことは常々運動してきている団体だということは認識していただきたいなというふうに思います。

◎ 副委員長（井上真砂美君） これは一般的な話なんですけど、統計を見ますと、子どもたち、小学生や中学生、家庭内感染が結構多いんですよ。75%とか、家庭内で起こる感染が多くて、学校内で起こっているのは、学校の努力があるんだろうと思うんですけれども、今の状況でも、これはいろんな配信されているものによると少ないということで、感染症にも強い少人数学級、そこに結びつけたのはちょっと拙速過ぎるというかね。前の先生たちは、少人数学級、今までずうっと求めてきて、今回は教職員の定数改善計画を求めているということで、言葉としてこちらも少人数学級といって同じような言葉は使っているんですけれども、似て非なるものというんですか、ちょっと違うものだというふうに思います。

◎ 委員（黒川 武君） 今、井上委員が言われたように、さきに採択した請願については、近年ずうっと同じ趣旨でもって一貫して行われ、我々もそれを採択し、国に警鐘を上げてきているといったところで、今回たまたまコロナ感染症と、そういった未曾有の事態になってきているといったところで。ですから、さきの採択した請願の範囲内にこの請願が認められるということで、委員会であれば、みなし採択という在り方もあります。しかし、先ほど井上委員が最後に言われた、似て非なるものと、私もそれを考えないわけでもありません。似て非なるものという扱いであれば、この請願は単独のもの

として、やっぱり取り扱わなければいけないだろうなあと思いますし、もしそうなった場合は、この請願項目全てを不採択にするのか、あるいは一部採択で持っていくのかと、あるいは趣旨だけ採択していくのか、そういった方法が多種あるわけですので、まずそちらの議論もしなければいけないのかなあと思うんですけど。まずは同一趣旨のものとして見るかどうかというところ、そこのところでこの委員の間で一致できるかどうかということだろうと思います。

◎ 委員長（大野慎治君） 今、黒川委員から同一趣旨のものなのか、似て異なるものなのか。今、木村委員も、どれを一部採択してくださいとか、まだ具体的には述べられていませんし、まだその段階ではございますが、どのような御見解か。

◎ 委員（須藤智子君） 同一趣旨ではないと思います、趣旨内容はね。請願項目の1、2、3とありますが、1と2は市に対してですよ、これ。

◎ 委員長（大野慎治君） 間違いなく、請願者の方がそうお答えになりました。

◎ 委員（須藤智子君） 市はこれをやっていますよ。詰め込み過ぎもしないし。今聞いたところによると。だから3ですよ。これ、ちょっと3も疑問があるんですよ、私。財政的支援。

◎ 委員長（大野慎治君） 木村委員、御発言はございませんか。

〔「分かるように説明をしていただきたいです」と呼ぶ者あり〕

◎ 委員（木村冬樹君） じゃあ今、焦点となっているのが、1、2は岩倉市に少人数学級を進めてほしいということでの請願だとして、3はそれを実現するために財政的な支援を国に求める意見書を上げてほしいということだもんだから、ある意味、僕は先生方の請願とは違った請願だとは僕も捉えているところですよ、それはね。だけど、少人数学級というものを求めるという点で言えば、やっぱり趣旨としては一定含まれているところがあるもんだから、全項目を趣旨採択ができるのかどうか、あるいは3項目めだけは、先ほども先生たちの請願に対しての意見書には、そのことも加筆してというようなことも少し議員間討議で言わせてもらったんですけど、そういった意見書を上げるといふことであれば、一部採択をしても可能ではないか。教職員の定数を増やせということだけではないとは思いますが、このやつにはね。いろんな財政的支援はほかにもありますから、必要なものは。そういったことで一部採択はできないのかなあというふうには思うんですけど。

◎ 委員（須藤智子君） 一部採択というのはどれを。

◎ 委員（木村冬樹君） 3項目めだけをということ。

◎ 委員（須藤智子君） 3項目。この財政的支援というのが私は分かんないんですけど、どういうことなのか。

◎ 委員長（大野慎治君） 補足説明しますと、多分、義務教育費国庫負担制度の堅持及び拡充が財政的支援というふうに、先ほどの中では、そういう意味が財政的支援というふうに。

◎ 委員（黒川 武君） こういうことなんですよ。何度も申し上げているように、教育を受ける権利というのはひとしく国民にあるわけなんです。その第一義的に責任を持つのは国なんです。それはもう明らかなことなんです。しかし、やっぱりその時々時代の環境とか、国でも豊富なお金があるわけじゃないもんだから、そういう意味合いでは、50人からスタートし、現状に至っているわけなんです。それはやっぱり時代環境、置かれている状況を見ながら国のほうでもそのように変えてきているんだろと思うわけなんです。ただ3項目めの少人数学級実現のための財政的支援を求める意見書といっても、具体性がないんです、具体性が。

ただ、意見書案を見ると、国の責任と負担で、必要な教職員の配置と学校医施設整備を進めて少人数学級の実現性を強く要望しますという、多分このことを意味するんだろ。このことって何かというと、先ほども井上委員が言われたように、定数改善計画なんです。それをまず第8次でもいいから策定することなんです。その前提がなくて財政的支援をといっても、それは僕は空理空論だろうと思います。なぜその点に触れられようとしなかったのか。先ほどはあえてお聞きはしなかったんですけど、だからこの3項目めだけを取り上げるといっても、市議会として責任ある議決ができるわけじゃないもんです。それで大変我々は、我々というのは失礼ですけど、ちょっとこの扱いをどうしようかということを行っているわけなんです。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに委員の皆さん、発言は。

◎ 委員（鬼頭博和君） 少人数学級実現というのはやっぱり重要なことだと思うんですけども、先ほどの水野議員からも言われたとおり、財政的支援を求めるとい言葉が入っているということは、やはり市が負担をして、それに対しての財政的支援という形に捉えざるを得ないんですよ、この文言であると。ということなので、なかなかこの部分も難しいのではないかなあという見解ではあります。

◎ 委員長（大野慎治君） 伊藤委員、一度も発言されていませんので、よろしくお願います。

◎ 委員（伊藤隆信君） 今ずうっとお聞きしまして、やはり請願趣旨を皆さんおっしゃっているんですけど、早急に30人学級または速やかに20人学級の

移行を実現してくださいというこの文言を聞いていると、やはり先ほどの問題点で財政の問題が出てくるし、学校でも全普通教室にエアコンを設置したりして、今非常に国のほうも一生懸命、タブレットですか、いろいろそういう形でやってみえる関係上、真剣に国のほうも考えてみえると思うんですけど、どうしても早急にやるということになってくると、財政の問題でちょっと厳しいかなあという点で、私も今回のこの請願については賛成しかねます。以上です。

◎ 委員長（大野慎治君） 意見の一致を見いだせませんので、これにて委員長としては議員間討議を終結させていただきます。

続いて、討論に入ります。

討論はございませんか。

◎ 委員（鬼頭博和君） 請願第3号「子ども一人一人を大切に作る感染症にも強い少人数学級を求める請願書」に対して、反対の立場から討論いたします。

少人数学級に対しては、文科省も今回のコロナ禍を受け、来年度から段階的な実施も含め、検討したいと踏み込んだ考えを示しています。政府のこのような考えに対して、本請願趣旨においては、早急に30人学級、その後、速やかに20人学級への移行を求めています。そのためには、教員や教室を急速に増加させる必要があります。仮に、現状の教員にプラスして非常勤講師、また臨時職員などが増えたとしても、教員の負担は増加すると考えられます。

さらに、岩倉市の小・中学校では、教室を大幅に増加させることは非常に困難であるということが、先ほど執行機関からも答弁があったところです。

したがって、子どもの数が今後減少していく中では、教員の定数や教室の確保について、しっかりとした計画の策定が求められてくると考えます。

学習の遅れについても、夏休みの短縮、またカリキュラムの圧縮、行事がなくなった時間を有効利用して現状の中で工夫を行っており、授業の詰め込み過ぎといった内容には当たらないと考えます。

また、学校行事についても、感染症対策を十分に行った上で、実行できるものについては、児童・生徒が主体的に取り組めるような取組も行われています。

少人数学級の必要性については十分理解できますが、速やかに実施するためには多くのハードルが存在しており、現状のコロナ禍の中でできる範囲、先ほど答弁がありましたように、少人数教室とか専科指導などの財政的支援を求めていくことが重要であると考えます。

以上のことから、本請願に対しては反対といたします。

◎ 委員長（大野慎治君） 賛成討論ございませんか。

◎ 委員（木村冬樹君） 請願第3号「子ども一人一人を大切に作る感染症にも強い少人数学級を求める請願書」について、賛成の討論を行います。

様々な審議の中で意見が出され、その中で少人数学級の必要性というものは全ての議員が認めたということは、非常に大事なことだというふうに思っています。それをやるためのハードルが幾つかある。これをどうやって取り除いていくかというのは、これからの岩倉市議会の課題になってくるかなあということをもまず確認しておきたいと思えます。

それで、少人数学級の必要性を述べる必要はないかもしれませんが、やはり請願第2号、3号それぞれ請願趣旨のところに必要性、こういった事態があるから必要なんだということがうたわれています。いじめや不登校など子どもを取り巻く教育課題や依然として解決していない問題、それから特別な支援や日本語教育を必要とする子どもが多く、一人一人に応じた適切な支援を行うための十分な時間を確保できないという課題、そしてさらには、小学校では新学習指導要領が全面実施となり、外国語教育については学習内容や授業時間数の増加により、子どもたちや学校現場の負担となっていると、こういったようなことが請願第2号の請願趣旨に書かれております。

また、請願第3号のほうでは、今回のコロナ禍を受けて、学校休業が行われ、分散登校の授業の中で、一人一人の顔がよく見えることや授業がよく分かること、こういったことを先生も子どもも実感したというようなことが書かれております。

こういったことから、少人数学級は本当に今こそ必要なんだということが大きな世論となって地方団体をも動かし、国の機関も検討に入っているというところだというふうに思えます。引き続き、そのハードルを取り除いていくために、岩倉市議会は何ができるのかということは考えていかなければならないというふうに思っています。

そういった中で、岩倉市議会はこの請願をどう取り扱おうとも、そういった点での国の検討は進められていくものだと考えます。しかし、私はこの時期にやはりこの請願を採択して、市に対して少人数学級のさらなる推進を求めること、そしてそれに必要な財政的な支援を国に求めていく意見書を提出していくこと、このことは今、岩倉市議会ですることではないかなあというふうに思えます。実施機関があるものですから、そこはそこの判断があろうかと思えますけど、岩倉市議会の意思としてはそういった意思を示していくべきではないかと、このように思うわけです。

そういった中で、今突然、学校の休校で本当に悲しい思いや苦しい思いを

させてしまった子どもたち、こういった子どもたちに少人数学級をプレゼントしようという声がやっぱり市民の中にも起こっているというふうに思います。そういった点で、この請願を採択すべきだというふうに考えますし、岩倉市議会として、引き続きこの問題については議論をしながら、ハードルを一つ一つ取り除いていくための努力をしていく、こういったことが必要だというふうに考え、今回の請願には賛成いたします。

◎ 委員長（大野慎治君） 討論を終結し、採決に入ります。

請願第3号「子ども一人一人を大切に作る感染症にも強い少人数学級を求める請願書」について、賛成の委員の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

◎ 委員長（大野慎治君） 挙手少数であります。

採決の結果、請願第3号は不採択にすべきものと決しました。

暫時休憩します。

(休憩)

◎ 委員長（大野慎治君） 休憩を閉じ、再開します。

次に、議案の審査に入ります。

議案第73号「岩倉市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について」を議題といたします。

当局の説明はいかがいたしましょうか。

[「省略」と呼ぶ者あり]

◎ 委員長（大野慎治君） 当局の説明を省略し、直ちに質疑に入ります。

質疑はございませんか。

◎ 委員（木村冬樹君） まず、この条例の一部改正の根拠となる国のほうからの、厚生労働省からの通知であります。ちょっと初歩的なことで申し訳ありませんけど、4階以上に保育室を設置する建物ということで基準が変更されたということで、その4階以上というのがなぜなのかなあというところがすごく分からないところです。

また、この屋内と階段室とが附室を通じて連絡する場合についての附室の構造基準ということで、具体的にどういう構造を求めているのかという点について、少し分かりやすく説明していただきたいと思います。

◎ 子育て支援課長兼地域交流センター長（西井上 剛君） なぜ4階以上かというところにつきましては、まず建築基準法の施行令自体で、特別避難階段というものの構造のほうで改正をされたということでございます。それに伴いまして、今回それを引用していた部分の改正が必要になったというところで、4階以上に対して必要というよりは、建築基準法の改正に合わせた結

果、その4階部分のところ該当してきたという御説明をさせていただきたいと思っております。

また、今までの改正前は、いわゆる階段室と部屋の間の附室というつなぎの部分でございますが、従来はその階段室に排煙をする設備があったとしても、そのつなぎの部分にも必ず排煙設備が必要であったというところが、改正後には、階段室に排煙設備があれば附室には特に個別に設備はなくてもよいというようになったというのが、この建築基準法施行令の改正でありまして、そのような排煙設備の有無というところの改正でございます。よろしくお願いをいたします。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに質疑はございませんか。

◎ 委員（木村冬樹君） はい、分かりました。すみません、細かいところで。

今回の改正は、以前の改正の中で少し改正ができていなかった点ということで、今回改めて通知があったということでやられるということですが、岩倉市として、こういった4階以上に保育室を設置するというようなことについては、もちろん今、岩倉市にはないわけでありまして、今後のところも考えて、どのような考えを持っているのか、この点について少しお聞かせいただきたいと思っております。

◎ 子育て支援課長兼地域交流センター長（西井上 剛君） まずもって、小規模保育事業所を新たにもし事業者が設置してくる場合には、当然場所についてのお話もさせていただくことになると思っておりますが、その中でも、これはその事業者の思いもあるところではございますが、恐らく現状でも1階部分ということでございます。今後においても、岩倉市としても、安全面等も考えても、高いところというのはあまりないのかなあというふうには考えているところでございます。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに質疑はございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎ 委員長（大野慎治君） ないようですので、質疑を終結します。

議員間討議は省略し、討論に入ります。

討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎ 委員長（大野慎治君） 討論はないようですので、直ちに採決に入ります。

議案第73号「岩倉市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について」、賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

◎ 委員長（大野慎治君） 挙手全員であります。

採決の結果、議案第73号は全員賛成により原案のとおり可決するべきものと決しました。

次に、議案第74号「岩倉市遺児手当支給条例等の一部改正について」を議題といたします。

当局の説明はいかがいたしましょうか。

(「省略」と呼ぶ者あり)

◎ 委員長(大野慎治君) 当局の説明を省略し、直ちに質疑に入ります。

質疑はございませんか。

◎ 委員(黒川 武君) 1点お聞かせいただきたいと思います。

改正文ですね。第3項が新たに追加されました。その中の文章として、その理由がやんだ後、15日以内、そういった記述がございます。しかし、これを見る限りは、その起点、開始日がいつなのか明確でないように思われますので、何か事例を紹介しながら、このところの解釈について説明を求めます。

◎ 子育て支援課長兼地域交流センター長(西井上 剛君) やんだ後というところにつきましては、具体的に何月何日といった明確な日が定められるものではなく、その受給資格者それぞれの方がこの条文にある認定の申請をすることができなかった原因となっている理由が解消されたときということになりますので、個人個人でその解消されるタイミングがずれてくると。

例えば今回、災害ということになりますと、大きな水害が、五条川ですと、床上の浸水をして、少し家の中の整理をするためになかなか市役所にも来られなかったと、それがようやく家のほうで汚泥が済んで、ようやく市役所へ来られた日があるとか、例えばコロナが今言われておりますが、コロナの事例で申し上げますと、今海外からの証明書類が届くという事例がございます。それがコロナの関係で少し船が出ないとか、そういうことがあって、その到着が船便が遅れているという事例で届いていないというような事例もあつたりと、それはその届いたときに初めて申請ができるといったようなことというような事例で、個々に事例があるということをお願いをしたいと思います。

◎ 委員(黒川 武君) 事例を説明いただいたんだけど、かえって分かりづらくなってしまったんだけど、コロナ感染症で陽性で判定された方が、その理由がやんだというのは、どういう時点でやんだと判断できるのかお聞かせください。

◎ 子育て支援課長兼地域交流センター長(西井上 剛君) 感染症で陽性だった方につきましては、御自分の御病気が治られて、人に感染するリスク等

も下がって、外出等ができるようになった、そのときを起点にできるというふうに考えます。

◎ **委員（木村冬樹君）** ちょっと具体的にお聞きしますけど、遺児手当の支給の手順にも関わると思うんですけど、この一部改正をその対象者に対して周知をしていくということが大事だというふうに思いますし、例えば新型コロナウイルス感染症拡大で人と人との接触を恐れて外出できない、こういった方も多分対象になろうかと思うんですよね。ですから、具体的にそういう対象者に対してこの周知がどういった形で、例えば遺児手当支給の理由ができたときに多分窓口を訪れたり、電話があったりというところで、いろんなことがやれるとは思いますが、そういった手順も含めて周知方法をどう考えているのかお聞かせいただきたいと思います。

◎ **子育て支援課長兼地域交流センター長（西井上 剛君）** 直接な対象者ではない、広くお知らせするという内容としては、ホームページを利用させていただくこととなりますが、この対象となってくる直接の方というのは、今議員も申し上げたとおり、かなり限定的でございます。まず、この遺児手当、また児童扶養手当に関するような事例になるという段階で、いろいろ離婚をされたりとか、そういうようなお届けがあることとなりますということで、市民窓口課のほうにお手続に来ると、その際にも必要に応じた内容によって、ちゃんと子育て支援課のほうには案内ができていますので、ここに絡んでくる方は、今少し議員さんも申されましたとおり、直接お話をすること、連絡を取ることができている方々でございます。なので、手続等に関しては、個別に丁寧に対応しながら説明はしていくということでございます。

◎ **委員長（大野慎治君）** ほかに質疑はございませんか。

◎ **委員（鬼頭博和君）** 説明資料のところちょっとお伺いしたいです。

一番下のところに、令和2年4月10日からというふうになっています。条例の施行の日の前日までに新型コロナウイルス感染症の発生または蔓延に起因するやむを得ない理由により、認定の申請ができなかった者については云々というのがありますけれども、この4月10日にこの日にちを決めたのはどういった理由なんでしょうか。

◎ **子育て支援課長兼地域交流センター長（西井上 剛君）** この遺児手当につきましては、愛知県遺児手当と岩倉市遺児手当と双方同時に支給をさせていただくような形になっております。この愛知県遺児手当のほうの支給規則も今回9月1日をもって改正されてございますが、そこでも同じ日付の4月10日が基準日となっております。

これにつきましては、令和2年4月10日というのは、新型コロナウイルス

感染症対策の愛知県緊急事態宣言が発令された日でございます、この日を起点としているものでございます。

◎ 委員長（大野慎治君） ほかに質疑はございませんか。

〔挙手する者なし〕

◎ 委員長（大野慎治君） ないようですので、質疑を終結します。

議員間討議は省略させていただきます。

続いて、討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎ 委員長（大野慎治君） ないようですので、直ちに採決に入ります。

議案第74号「岩倉市遺児手当支給条例等の一部改正について」、賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

◎ 委員長（大野慎治君） 挙手全員であります。

採決の結果、議案第74号は全員賛成により原案のとおり可決すべきものと決しました。

続いて、厚生・文教常任委員会の閉会中の継続審査について議題とします。事務局、資料配付をお願いします。

〔資料配付〕

◎ 委員長（大野慎治君） まず、委員長としておわびを申し上げます。

6月定例会において、閉会中の継続審査事項として申し出させていただきました手話言語条例について、稲沢市に行政視察を調整させていただきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大中だったため、視察を実施することができませんでした。本当に申し訳ございません。おわびを申し上げます。

改めてお手元に配付したとおり、もう一度、手話言語条例の制定について議長へ継続審査の申出をしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎ 委員長（大野慎治君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

今、担当課と団体の方と意見交換ができないかということで、課長にちょっと調整は図っていただいておりますが、視察等々もちょっと今の状況ではかなり厳しいとは思いますが、何とかできるように調整を図りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

なお、本日の本委員会の委員長報告の文案につきましては、正・副委員長に御一任願いたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎ 委員長（大野慎治君） 異議なしと認め、そのように決しました。

以上で、厚生・文教常任委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。